



2023年3月期 第2四半期

# 決算説明資料

2022年11月25日

証券コード:3741

 **株式会社セック**  
SEC Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

# 目次

- 事業分野
- 第2四半期決算概要
- 通期業績見通し
- 注力分野の状況 (IoT・AI・ロボット)
- サステナビリティへの取組み

# 事業分野 (BF)

会社理念「**社会の安全と発展のために**」

社会の安全と発展にかけがえのない  
一流のソフトウェア会社となる

セックは、1970年の創業以来、コンピュータシステムの普遍的な設計技術である「リアルタイム技術」を中核としています。この「リアルタイム技術」が必要とされる分野で、「社会の安全と発展」に貢献する分野が、当社の事業分野です。社会基盤システムと宇宙先端システムの2つの創業来の事業分野に、時代の変化とともに、新しい事業分野が加わっていきました。

これからも、セックの事業分野はますます拡大していきます。





# 事業分野 | 社会基盤システム

## 世の中をもっと便利に、安全にするソフトウェアを開発

高度交通システム、防衛関連システム、医療関連システム、  
環境エネルギー関連システム、位置情報管理システム、官公庁向けシステムなどを開発しています。



高度交通システム  
ETC/VICS(渋滞情報)



位置情報サービス  
ロードサービス・緊急通報



緊急医療支援システム



医薬品・医療機器  
安全対策支援システム



防衛関連システム



裁判所関連システム



官公庁向けシステム  
家畜個体把握・各種統計・防災関連

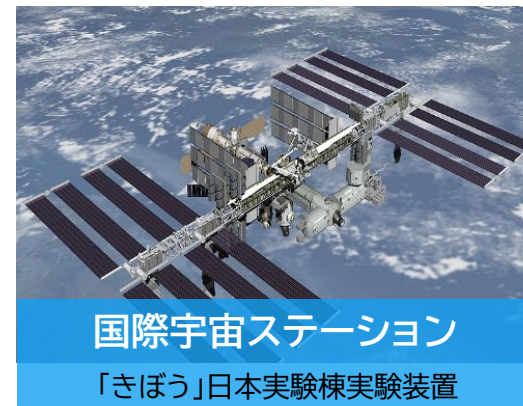
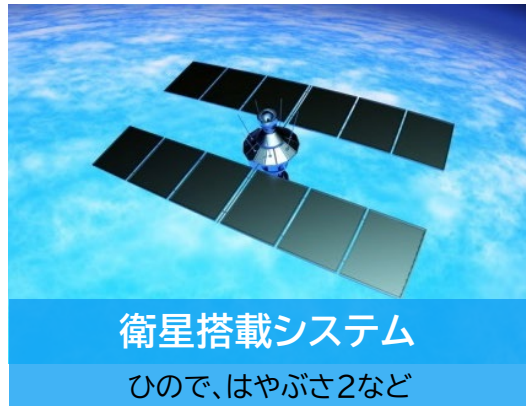


環境エネルギー  
マネジメントシステム

# 事業分野 | 宇宙先端システム

## 人類の夢を叶えるソフトウェアの開発に挑戦

科学衛星や惑星探査機の搭載システム、観測データ解析システムなどの開発と、次世代ロボットに関する研究開発、サービスロボットシステムの開発をしています。





# 事業分野 | モバイルネットワーク・インターネット

## 次世代のエッジデバイスと IoT のソフトウェア



キャッシュレス決済端末や車載端末などモバイルデバイスを使ったサービスシステム、IoT関連システム、XR(クロスリアリティ)など次世代技術を使ったエッジデバイスのソフトウェアを開発しています。



2023年3月期 第2四半期

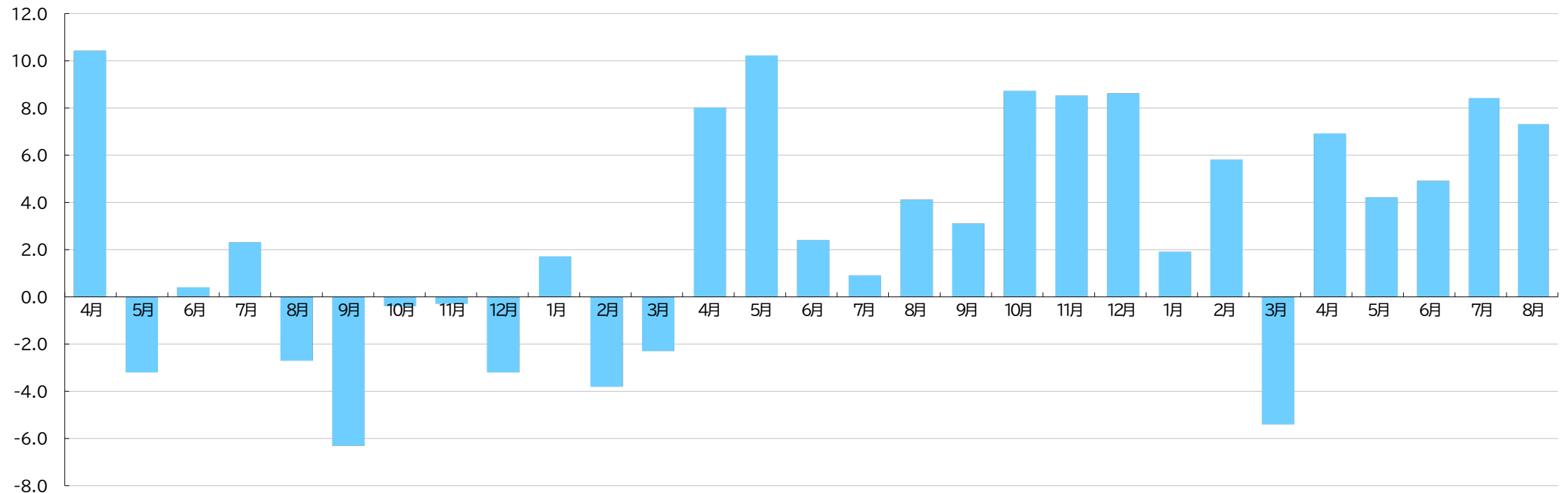
# 決算概要

# 事業環境

## 2023年3月期第2四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)

(単位:%)



2021年4月以降の前年同月比の月別売上高は、2022年3月を除き増加しており、IT需要は全体的には概ね堅調と推察される。



# 2023年3月期第2四半期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、  
前年同期比で増収増益

	当期（百万円）	前期比	利益率
売上高	3,369	+16.3%	
営業利益	451	+25.1%	13.4%
経常利益	480	+26.0%	14.3%
当期純利益	336	+25.6%	

受注高は過去2位、受注残高は過去最高

	当期（百万円）	前期比
受注高	3,263	+10.8%
受注残高	3,092	+18.3%

## 先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

移動体通信事業者向けのサービス系の開発が回復基調となり、官公庁向けの開発、宇宙天文分野の開発も堅調に推移するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前期を上回り過去2位となり、受注残高は過去最高を維持している。

## 第2四半期損益計算書

	2022年3月期第2四半期 (百万円)	2023年3月期第2四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	2,897	3,369	116.3	3,100	108.7
売上原価	2,055	2,396	116.6	2,195	109.2
売上総利益	842	972	115.5	905	107.5
販売管理費	481	521	108.4	540	96.5
営業利益 (営業利益率)	360 (12.5%)	451 (13.4%)	125.1	365 (11.8%)	123.6
経常利益 (経常利益率)	381 (13.2%)	480 (14.3%)	126.0	390 (12.6%)	123.3
当期純利益	267	336	125.6	270	124.6

**売上原価** 外注費が大幅に増加（外注費 10.3億円、前年同期比21.9%増／売上高外注比率30.8%、前期29.4%）

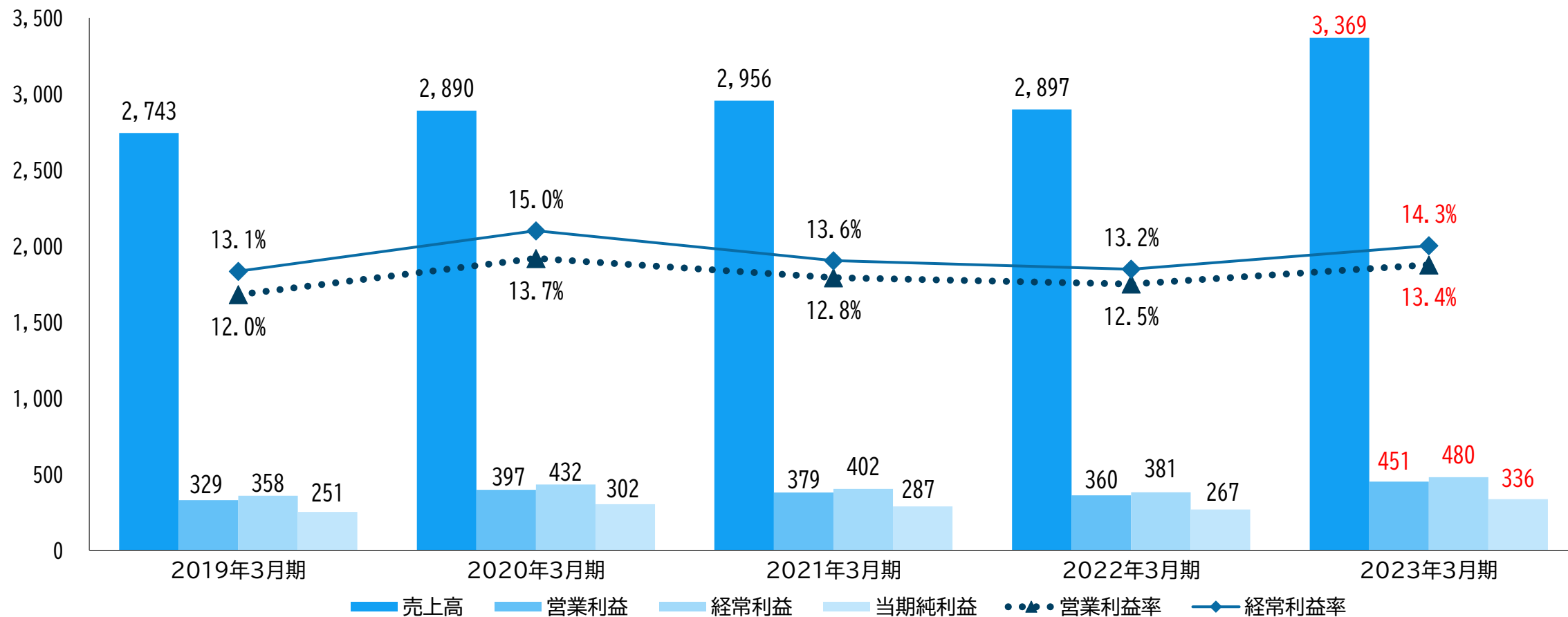
**販売管理費** 新入社員の増加などにより労務費が増加、オフィス増床により家賃、費用が大幅に増加  
研究開発費は31百万円で、前年同期比で10.4%増

**営業外損益** 研究開発の補助金収入が発生、受取出向料が増加

## 第2四半期決算業績推移(過去5年)

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てで過去最高

(単位:百万円)

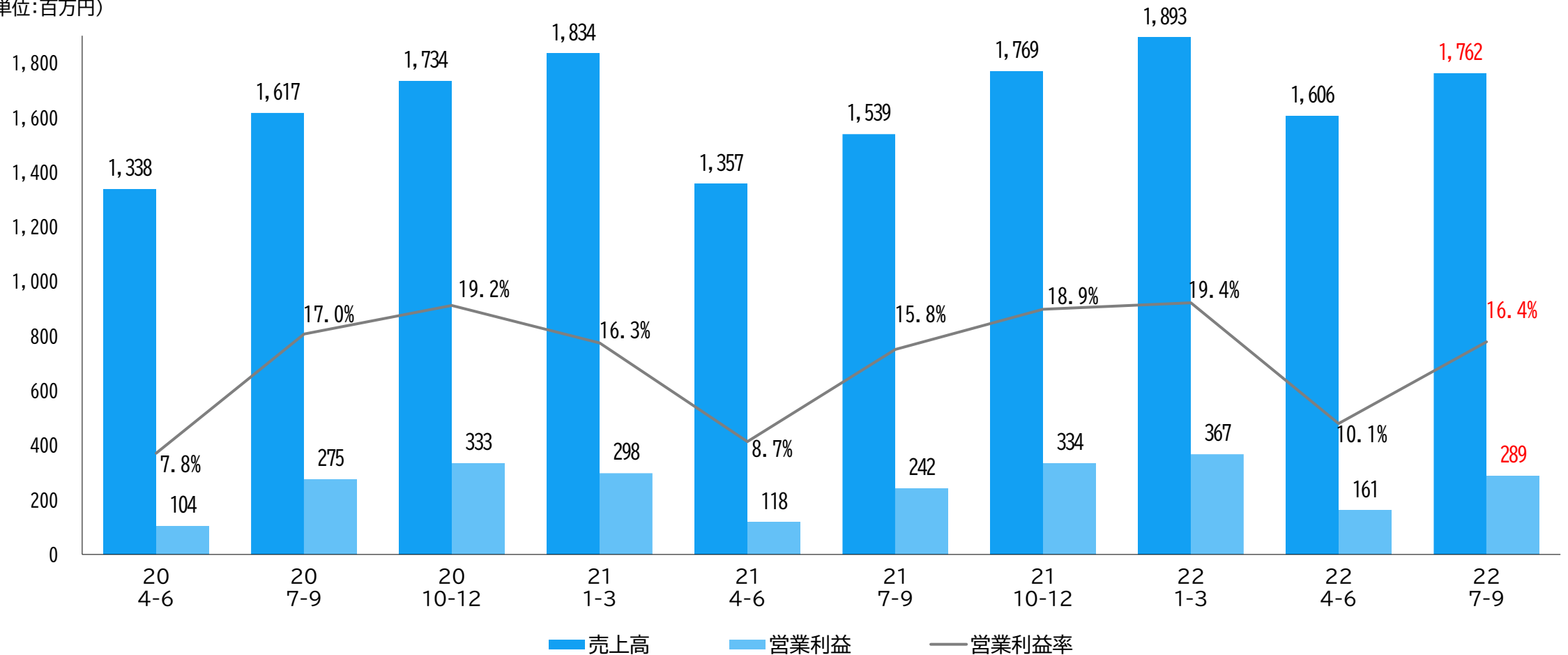




# 四半期業績推移(PL)

## 前年度第3四半期から、4四半期連続の増収増益

(単位:百万円)

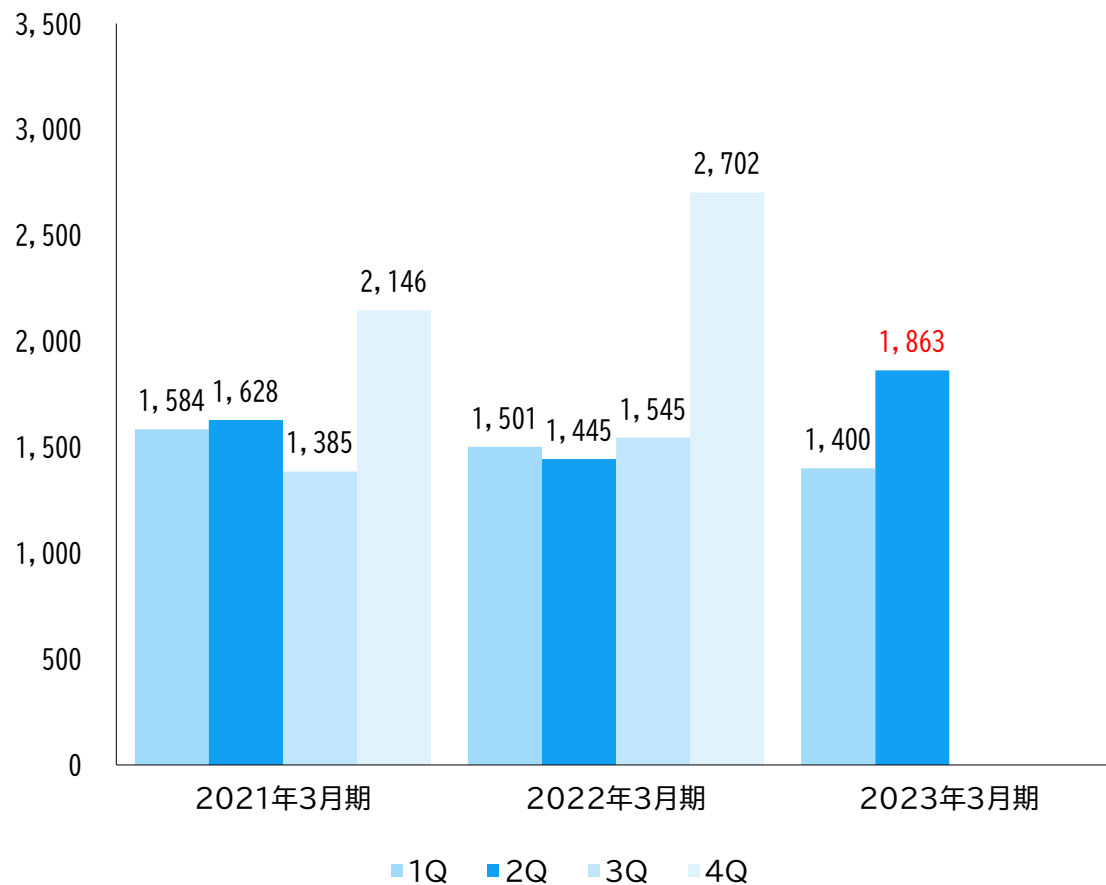


# 四半期業績推移(受注状況)

受注高は過去2位、受注残高は過去最高

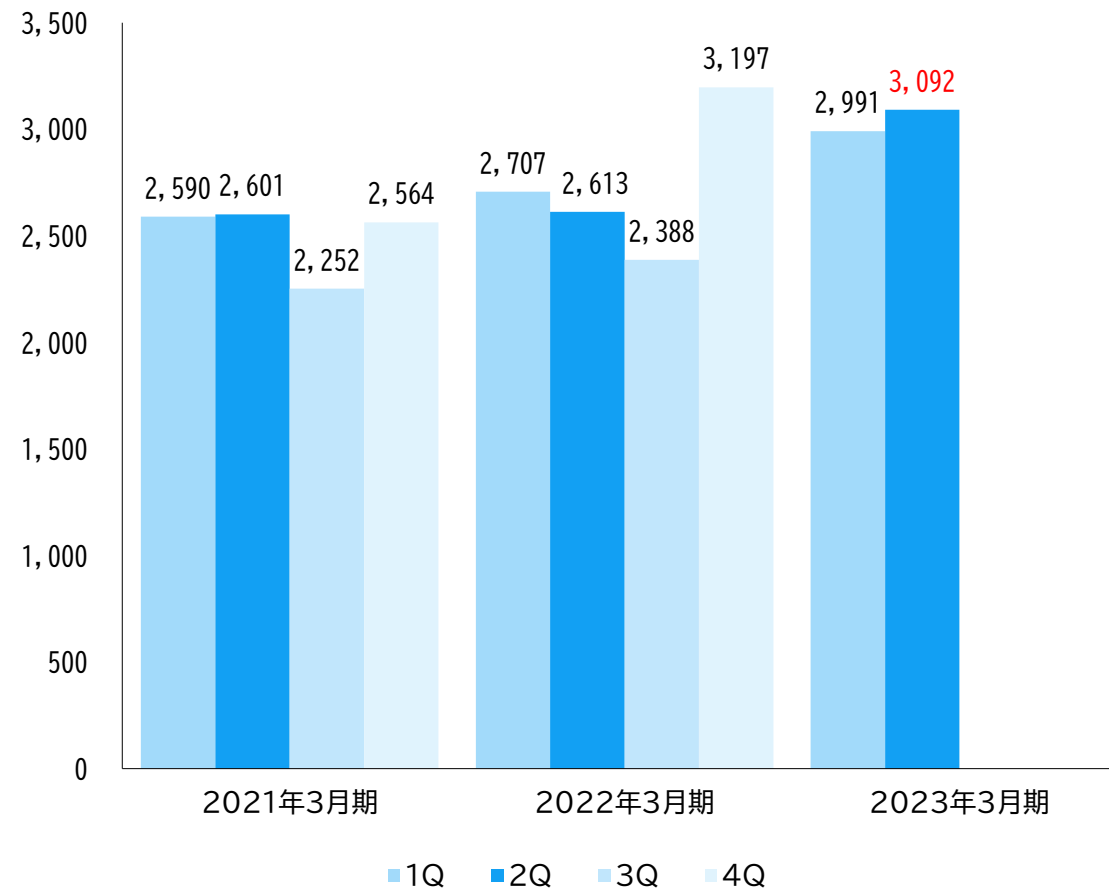
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



## 第2四半期BF別の状況

### モバイルネットワークBF、社会基盤システムBFが大幅に増加

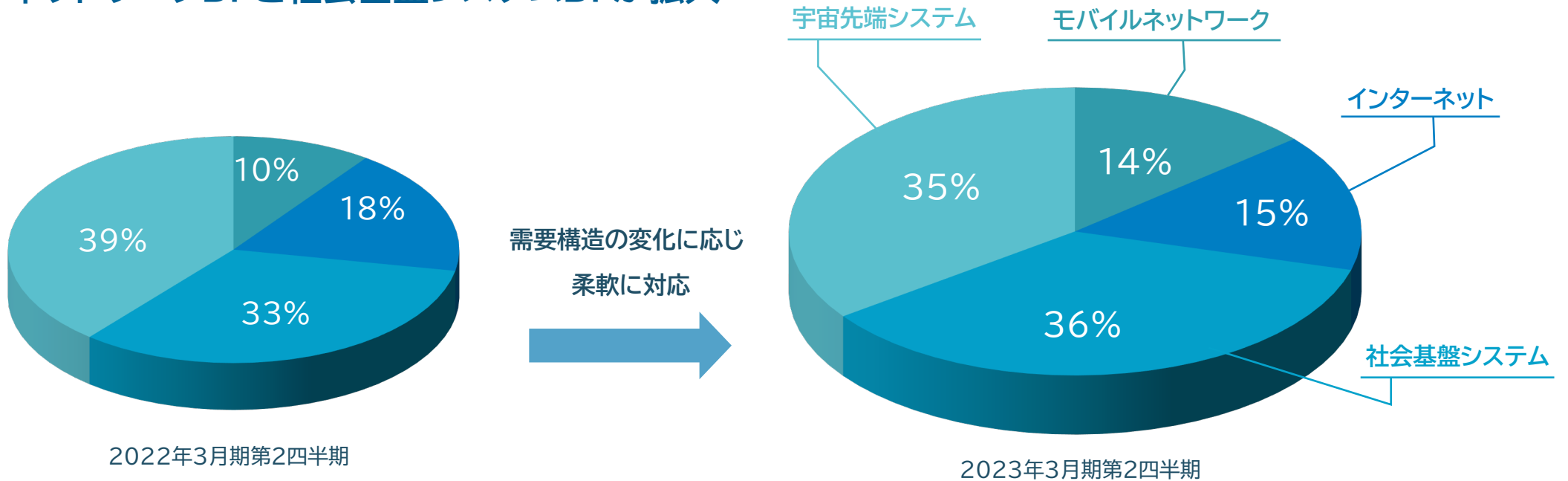
ビジネスフィールド	2022年3月期第2四半期		2023年3月期第2四半期		前期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	283	9.8	467	13.9	164.7
インターネット	538	18.6	519	15.4	96.5
社会基盤システム	949	32.7	1,202	35.7	126.7
宇宙先端システム	1,125	38.9	1,179	35.0	104.7
合計	2,897	100.0	3,369	100.0	116.3

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのXR(クロスリアリティ)サービスの開発が大幅に増加
- インターネットBFは、非接触ICを利用した開発が大幅に増加したが、民間企業向けの大型案件の開発が終了
- 社会基盤システムBFは、官公庁向けの開発が引き続き好調
- 宇宙先端システムBFは、宇宙天文分野の開発が大幅に増加



## 第2四半期BF別売上構成比

### モバイルネットワークBFと社会基盤システムBFが拡大



#### モバイルネットワークBF ↑

移動体通信事業者向けのXR(クロスリアリティ)サービスの開発が大幅に増加

#### インターネットBF ↓

非接触ICを利用した開発が大幅に増加したが、民間企業向けの大型案件の開発が終了

#### 社会基盤システムBF ↑

官公庁向けの開発が引き続き好調

#### 宇宙先端システムBF ↓

宇宙天文分野の開発が大幅に増加したが、全体構成比では減少

## 第2四半期BF別受注状況

### モバイルネットワークBFがXRサービスの受注により大幅に増加

ビジネスフィールド	2022年3月期第2四半期		2023年3月期第2四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	270	146	572	211.2	350	238.9
インターネット	517	346	471	91.2	242	70.1
社会基盤システム	955	1,461	973	102.0	1,774	121.4
宇宙先端システム	1,203	658	1,246	103.6	723	109.9
合計	2,946	2,613	3,263	110.8	3,092	118.3

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,463百万円、前期(2,042百万円)と比較し20.6%の増加)

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのXR(クロスリアリティ)サービスの受注が大幅に増加
- インターネットBFは、前期の民間企業向けの大型案件の反動で受注が減少
- 社会基盤システムBFは、防衛をはじめとした官公庁案件の受注が増加
- 宇宙先端システムBFは、宇宙天文分野の受注が増加

## 第2四半期末貸借対照表

	2022年3月末日(百万円)	2022年9月末日(百万円)	増減(百万円)
流動資産	6,652	6,306	▲345
固定資産	1,772	1,899	126
流動負債	1,195	961	▲233
固定負債	138	191	52
純資産	7,090	7,052	▲38
総資産	8,425	8,205	▲219
自己資本比率	84.2%	85.9%	1.8%
流動比率	556.5%	655.7%	99.2%
固定比率	25.0%	26.9%	1.9%

**流動資産** 売掛金及び契約資産の減少などによる減少

**固定資産** 増床による有形固定資産の増加などによる増加

**流動負債** 未払法人税等、買掛金の減少などによる減少



## 第2四半期キャッシュ・フロー計算書

	2022年3月期第2四半期 (百万円)	2023年3月期第2四半期 (百万円)	増減 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,116	1,032	▲84
投資活動によるキャッシュ・フロー	90	▲94	▲184
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲289	▲380	▲90
現金及び同等物の増減額	917	557	▲359
現金及び同等物期末残高	3,771	3,792	21

**営業キャッシュ・フロー** 売上債権の回収額は増加したが、外注費、法人税等支払額が増加したことなどによる収入減

**投資キャッシュ・フロー** 増床による有形固定資産の取得などによる支出増

**財務キャッシュ・フロー** 自己株式の取得、配当金支払額の増加などによる支出増

2023年3月期

# 通期業績見通し

# 先端技術を窮め、 オープン・イノベーションで事業成長を目指す

### 「研究開発」

今期の特徴は2点

1. 1社完結の研究開発以外に、大学や国の研究機関との最先端技術でのアライアンスを積極的に推進します。
2. MR(Mixed Reality:現実空間と仮想空間を融合させ、相互にリアルタイムで影響し合う空間を構築する技術)の研究を進めます。

### 「データサイエンス」

1. 情報科学、統計などのアプローチから有益な知見やビジネス上の便益を見出すことで、さまざまなビジネス変革の可能性を提案します。
2. 技術だけではなく、その土台となるドメイン知識やビジネススキルを身に着け、お客様の懐に深く入り込み、お客様ビジネスに貢献します。

### 「人材育成」

1. AI、セキュリティ、データサイエンスを中心に技術教育を強化します。
2. ロボットやFPGAなどハードウェアにも強い人材育成を強化します。

## 2023年3月期業績見通し(変更なし)

上期は計画を上回り、商談状況は堅調だが、需要構造の見通しが不透明であるため、業績見通しは据え置く

	2022年3月期実績(百万円)	2023年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	6,560	6,950	105.9
売上原価	4,585	4,890	106.6
売上総利益	1,974	2,060	104.3
販売管理費	912	990	108.5
営業利益 (営業利益率)	1,062 (16.2%)	1,070 (15.4%)	100.7
経常利益 (経常利益率)	1,107 (16.9%)	1,130 (16.3%)	102.1
当期純利益	780	785	100.6

**売上高** 受注残高が前期を上回っているため、前期比約6%増の計画

**売上原価** 社員数増加による人件費の増加、イノベーション促進のための投資(増床、設備投資)により増加を見込む

**販売管理費** 研究開発への投資、増床による家賃の増加などを見込む

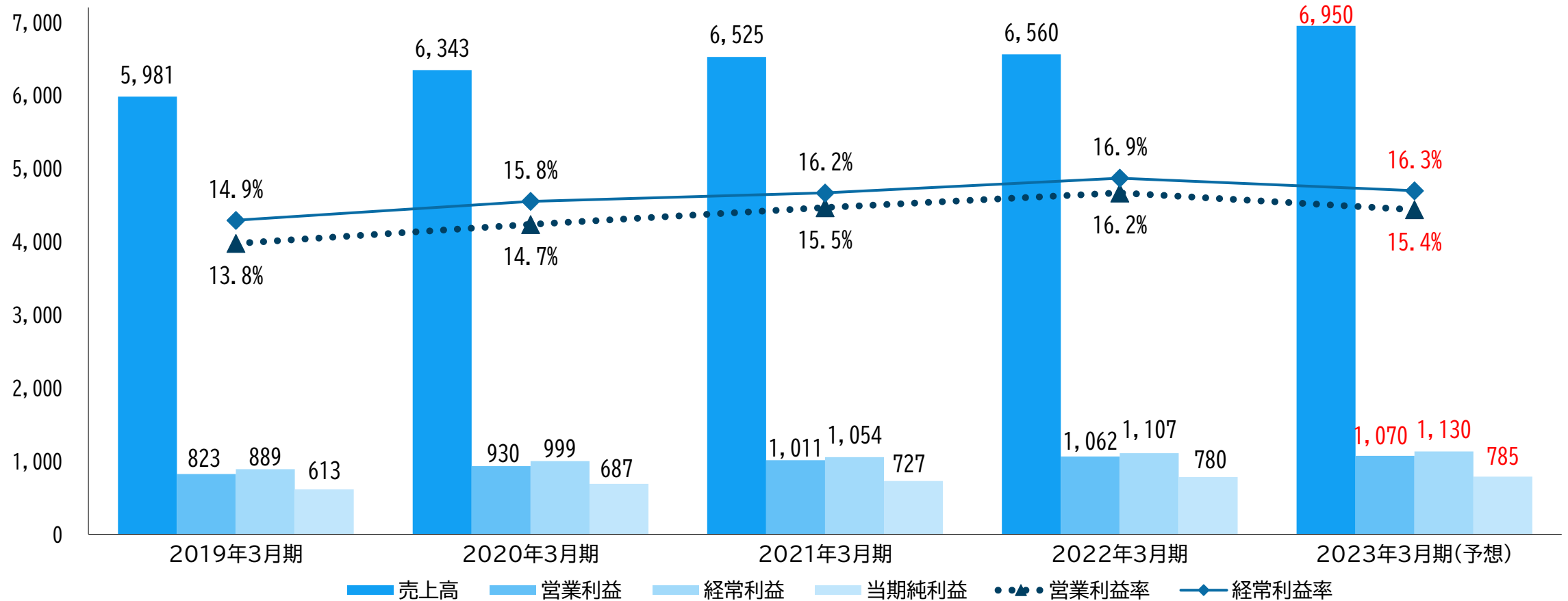
**営業外損益** 国の研究機関からの受託研究による補助金収入により増加を見込む

**当期純利益** 前期に適用のあった税額控除がないため、微増となる見込み

# 通期業績の推移

## 6期連続の増収増益を目指す

(単位:百万円)





# 2023年3月期BF別業績見通し

## モバイルネットワークBF、社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが増加する見込み

ビジネス フィールド	期初の想定	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系などの開発が回復基調となり、増加	➡	移動体通信事業者向けのXRサービスの開発が大幅に増加し、想定を上回る展開	➡
インターネット	非接触ICを利用した行政の電子化に関する開発が期待できるが、他のBFとの人員配分の最適化により、減少	➡	非接触ICを利用した開発が大幅に増加したものの、民間企業向けの大型案件が終了し、ほぼ想定どおりの展開	➡
社会基盤 システム	官公庁系の開発が引き続き堅調で、増加	➡	官公庁系の開発が堅調で、ほぼ想定どおりの展開	➡
宇宙先端 システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調、宇宙天文分野の開発も堅調に推移し、増加	➡	ロボットの研究開発案件が計画変動により減少したが、宇宙天文分野の開発が大幅に増加し、全体では微増を見込む	➡

# 注力分野の状況 (IoT・AI・ロボット)

# エッジコンピューティング

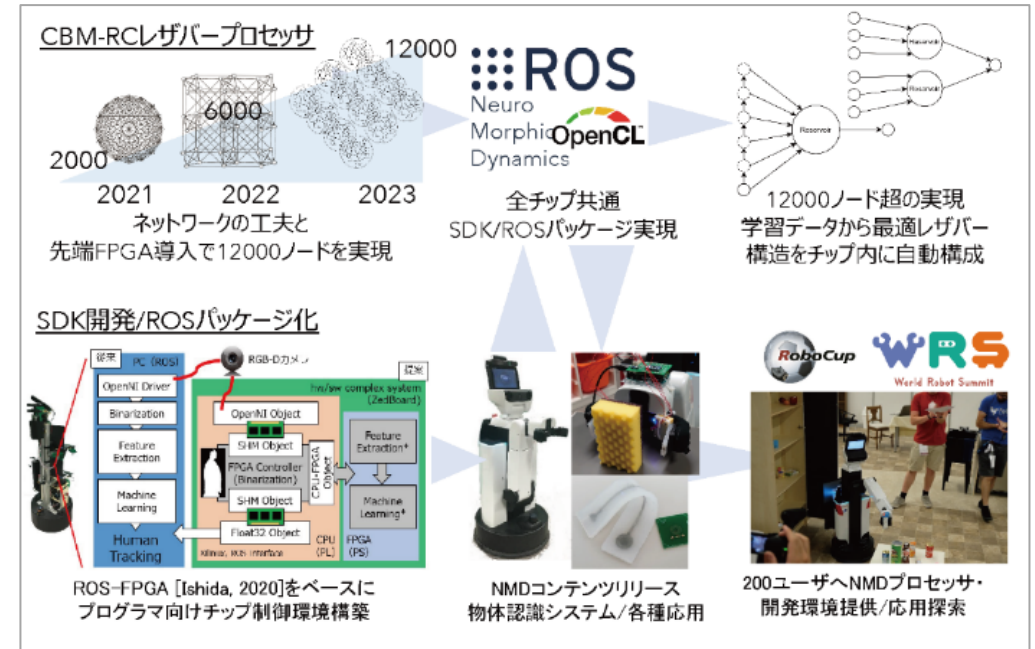
## エッジAIチップの開発

「高効率・高速処理を可能とするAIチップ・次世代コンピューティングの技術開発」  
(NEDO公募事業)

2022年4月にスタートした本プロジェクトでは、人の脳の仕組みを数式化した機械学習アルゴリズムのひとつであるレザバー計算モデルを実行する集積回路チップ(エッジAIチップ)を開発し、AIを搭載したエッジデバイスとしてロボットやIoT分野に応用し、実用化を目指しています。

### Web3.0とエッジAIチップ

Web3.0は、従来のWebサーバに情報や通信を集中させる方式ではなく、利用者が個々にデータを管理する「分散型インターネット」と言われる新しい概念です。分散型インターネットでは、AIを搭載したエッジデバイスの重要性がますます高まります。



## 自律移動型ロボット協働パッケージ「RTakt」(アールタクト)をリリース

(2022年8月)

「RTakt」は、特定のメーカーやクラウドサービスに依存することなく、異なるメーカー・異なる用途の自律移動型ロボットを一括管理・運用できる環境を実現するソフトウェアです。

どのメーカー・用途のロボットも同じ操作手順で運用できますから、ロボットを運用する現場のスタッフに負担がかりません。

「RTakt」は、誰もがロボットと協働できる環境を提供します。



MR(Mixed Reality:複合現実)とは、現実世界とデジタル世界の境界をなくし、現実世界からデジタル世界に直接アクセスすることができるようにする技術です。当社は2017年よりJAXAとの共同研究でMRの研究開発をスタートし、2018年には「Microsoft Mixed Realityパートナープログラム」のパートナー認定を取得しました。



## 製造業、学術研究での活用に加え、 コンシューマー向けのサービス開発が拡大

### 製造業、学術研究での活用が拡大傾向

- 学術研究でのシミュレーション、設計支援といった従来の活用分野に加え、製造業など実用分野でのMR技術の活用が拡大。
- 開発事例としては、整備工場での組み立て作業支援、車体への塗装支援、大型機器取扱いの教育訓練システムなど。製造現場で、作業員が装着したMRデバイスを通して対象機器に指示やシミュレーション結果を投影する。

### 通信事業者が提供するXRサービスの開発が拡大

デジタルヒューマン、デジタルツインなど、コンシューマー向けのサービスや機能の開発が主流。

## 蓄積した研究開発成果とマイクロソフト社との アライアンスで、MRを核としたビジネスを推進

### 次世代可視化技術の研究開発(JAXA共同研究)

次世代の宇宙機、航空機設計における大規模な数値シミュレーション結果を、高精細な3Dモデルとして可視化する技術を蓄積し、得られた研究成果をビジネス分野へ応用する。遠隔地間3Dモデル共有技術の開発にも取り組む。

### ソフト会社の特徴を活かした高付加価値化ビジネスの推進

AI、画像認識、ロボットとの連携など、MR単独ではなく、エンジニアリングの視点で取り組む。

### 普及の鍵はハードウェアの進化と低コスト化

軽量化、低消費電力化、高コストなどハードウェアの課題が多い。

# 共同研究「空間特性の可視化」(東京大学 生産技術研究所)

## 建築物や都市の空間特性をリアルタイムで可視化する空間設計ソフトウェアを開発・公開



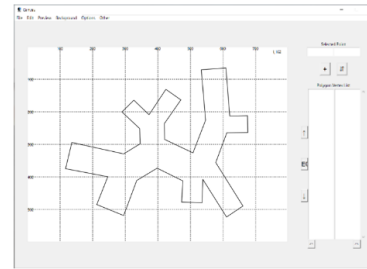
東京大学 生産技術研究所の本間 裕大 准教授と、数理最適化手法を用いて人々の動きや交流のパターンが及ぼす影響を評価・予測し、建築・都市空間の設計を支援するシステムの開発を共同で行っています。

その成果の一つとして、建築空間や都市空間において、「人々の交流が生まれやすいホットスポット」の場所を、色の濃淡としてリアルタイムに可視化するソフトウェア「Convex Space Visualizer」を、2022年9月14日より無償公開しました。

(2022年9月14日 当社ニュースリリース:[https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto\\_20220912531508/pdfFile.pdf](https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20220912531508/pdfFile.pdf))

### 【① システムへの入力】

分析したい空間を、マウスで簡単に入力、および修正可能

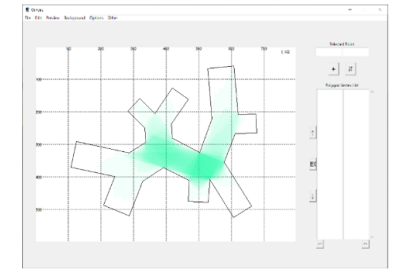


数秒~1分未満で  
分析が完了



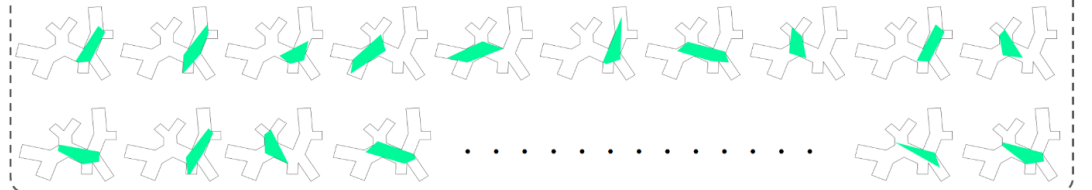
### 【③ システムからの出力】

交流が生まれるホットスポットが  
グラデーションとして可視化



### 【② システム内での処理】

入力された図形内のあらゆる凸空間を高速に全列挙 (この空間例の場合 **約23万通り**)



これまで感性に頼らざるを得なかった空間設計において、定量的な可視化を可能とし、ゲームチェンジャーとなる可能性を秘めています。



# サステナビリティ への取り組み

# 持続可能な社会の実現のために



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

当社は、ソフトウェア開発の事業活動を通して社会課題の解決に取り組むことで、社会の持続的発展に貢献することをサステナビリティ推進の考え方としています。

社会課題を起点とした事業機会創出にも取り組むことで、より一層 SDGs の達成に貢献していきます。



## 環境



JQA-EM1216

セックは2000年12月に環境マネジメントシステム(ISO 14001)の認証を取得しました。

以来、「地球資源が有限であることを認識し、環境の保全に永続的に配慮する」ことを会社方針とし、企業活動と地球環境の調和を目指して、全社員が環境問題に積極的に取り組んでいます。



## 社会

### 研究開発

私たちの生活を安全、安心、快適にし、環境負荷をも軽減する「ユビキタス」をテーマに取り組んでいます。

### 人材育成

プロに相応しい挑戦の機会と魅力ある待遇を提供。

### ソフトウェア教育・リスキリング支援

学校や企業、自治体に教育プログラムを提供。

### 次世代育成支援

子育てサポート企業として、「くるみん認定」を取得



## ガバナンス

### コーポレートガバナンス

審議に十分な時間をかけた取締役会を開催することと、監査等委員会監査と内部監査による経営チェック機能の充実を重視しています。透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行う仕組みを構築・維持・改善し、持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでいます。

### コンプライアンス

「法および社会規範を遵守」することを会社理念の行動規準に定め、社員と共有しています。

# スペースサステナビリティ(持続可能な宇宙開発)

## ADRAS-Jパートナーシップに参加

宇宙空間には、運用を終えた人工衛星や、故障した人工衛星、打ち上げられたロケットの残骸など、地上から制御することのできない人工物が無数に存在しています。これらスペースデブリ(宇宙ごみ)は、運用中の宇宙機の故障の要因になったり、今後打ち上げられる宇宙機の活動を妨げることになり、今後の宇宙開発の脅威となる可能性があります。

セックはアストロスケール社と、スペースデブリ除去技術の実証衛星である「ADRAS-J(アドラスジェー、Active Debris Removal by Astroscale-Japanの略)に関するパートナーシップ契約を、2022年8月に締結しました。パートナーシップを通して、宇宙開発、ひいては地球環境の保護と持続可能な開発の実現に、貢献してまいります。

(2022年8月3日 当社ニュースリリース:[https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto\\_20220801509403/pdfFile.pdf](https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20220801509403/pdfFile.pdf))





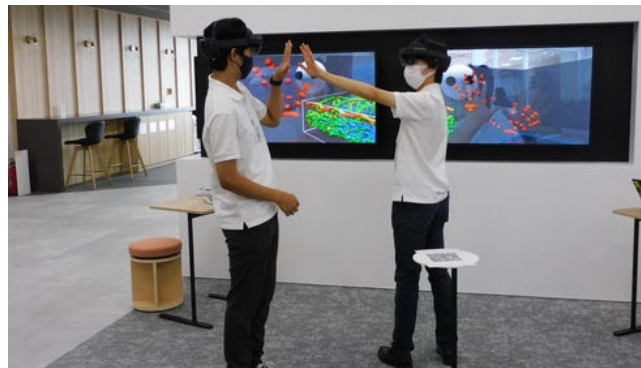
# ソフトウェア教育支援

## 中高生向け 会社見学プログラムを開催

2022年7月11日、中高生を対象とした会社見学プログラムを開催しました。中高生のキャリア形成・キャリア教育支援を目的に開催したもので、当社オフィスの見学、エンジニアとの交流会、技術体験などを実施しました。



参加してくれた、立教池袋中学校・高等学校の数理研究部の皆さん。



MR(Mixed Reality)を体験。エンジニアから直接、技術的なレクチャーを受けました。



エンジニアとの交流会。



ロボットアームの操作体験。



研究企画室・室長によるエンジニア講演「宇宙開発と私」。

# ソフトウェア教育支援

## 3rd Kibo Robot Programming Challenge



「きぼう」ロボットプログラミングチャレンジ(Kibo-RPC: Kibo Robot Programming Challenge)は、国際宇宙ステーション内のドローンロボットを動かすプログラムを開発し、与えられた課題を解決する速さと正確性を競う、学生向けの国際的なプログラミング競技会です。当社は2019年から、競技会用プラットフォームやポータルサイトの開発と運用、予選会の支援業務にも従事しています。

10月29日に第3回大会の軌道上決勝大会が開催され、各国予選会を勝ち上がった10チームが参加しました。

## 中高生向けAI教育

中高生向けAIプログラミング講座(2022年9月～10月、東京都教育委員会・東京スポーツ文化館主催)に、講師および企画・実施で協力しました。プログラミングをしながらAIについて学ぶ体験を通して、中高生が好奇心を育み、深く探求する力を身に付ける機会としてもらうことを目指しました。

日程	全5回
1	2022.9.11 日 13:00～17:00
2	2022.9.25 日 13:00～17:00
3	2022.10.2 日 13:00～17:00
4	2022.10.9 日 13:00～17:00
5	2022.10.16 日 10:00～17:00

## 世田谷ITカレッジ(リスキリング・就業支援)

セックは世田谷区と協定を締結し、IT系職種での就業を目指す世田谷区民の方の就業支援を実施しています。

「世田谷ITカレッジ」は、成長産業であるIT業界へのキャリアチェンジを支援することを目的として2022年5月に開校しました。ICTの基礎技術からプログラミング、システム開発演習まで幅広い講座を開講し、受講者の方のリスキリングや就業支援に取り組んでいます。

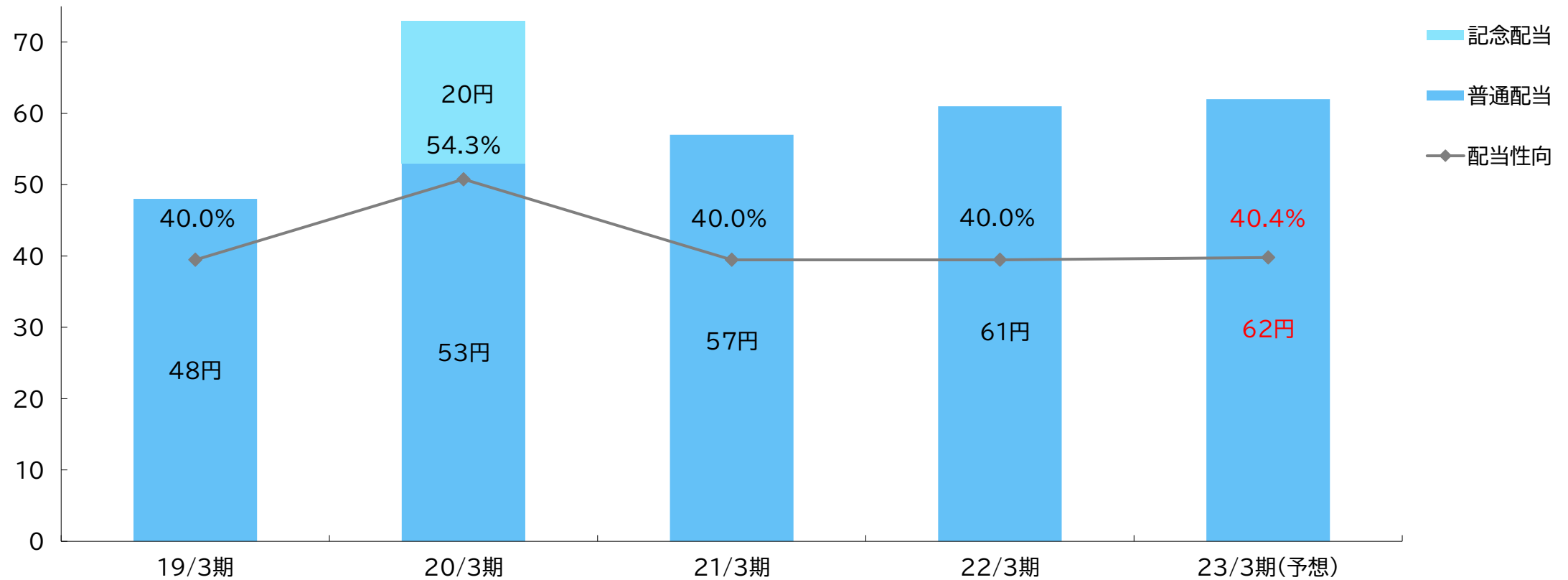


# 配当の方針

## 配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2023年3月期は1株当たり62円の配当予想とする。

(単位:円)



## ご参考: ニュースリリース一覧(2022年5月~11月)

- 5月18日 ラジオNIKKEI「アサザイ」(2022年5月18日放送)に代表取締役社長 櫻井が出演
- 6月28日 自動運転AIチャレンジ2022にて優秀賞を受賞
- 7月19日 東京都教育委員会・東京スポーツ文化館主催 中高世代向けAIプログラミング講座に協力
- 7月19日 ACRiウェビナー(2022年7月26日開催)にて FPGAでのAI活用に関する技術解説を実施
- 7月29日 中学生・高校生向け会社見学会を開催
- 8月 2日 アストロスケールとセック、ADRAS-Jに関するマーケティングパートナーシップを締結
- 8月17日 自律移動型ロボット協働パッケージ「RTakt」(アールタクト)を発売開始
- 8月17日 量子ソフトウェアコンソーシアム、小型技術刷新衛星研究開発プログラム 衛星DX研究会に加盟

- 9月 1日 「第2期 世田谷ITカレッジ」を開講
- 9月14日 東京大学とセック、建築物や都市の空間特性をリアルタイムで可視化する空間設計ソフトウェア「Convex Space Visualizer」を公開
- 10月11日 Japan Robot Week 2022 出展
- 10月19日 一般社団法人量子ICTフォーラムに加盟
- 10月24日 宇宙科学技術連合講演会にてJAXAと共同で「きぼう」ロボットアームの運用の自動化・効率化について論文発表
- 11月 1日 一般社団法人 スマートシティ社会実装コンソーシアムに加盟

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでもなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。